

静岡松涛タイムス 第60号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：滝田宏平

連絡先：0547-36-1238(TEL) 0547-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL <http://www.shizuoka-karate.com/> (公式 HP)

<http://plaza.across.or.jp/~cyber-ex/> (広報部)

第13回中部地区空手道選手権大会



平成24年10月14日、藤枝市の静岡県武道館に於いて第13回中部地区空手道選手権大会が開催され、450名ほどの選手が参加、熱戦を繰り広げました。当日は秋晴れで、まさに「スポーツの秋」にふさわしい天気となりました。会場内は開会式前から練習する拳士たちの熱気につつまれ、これから繰り広げら

れる熱い闘いを予感させてくれました。開会式が終わり、選手達はそれぞれのコートに分かれて型の試合が行われました。審判していて思うのは、上位入賞者の型はスピード・極め・着眼・気合というのはもちろんですが、なにより「気迫」が他の人より勝っているように感じます。お昼を挟んで、本部指導員による気迫溢れる「十手」と基本組手の応用の模範演舞を見た後、午後の組手の試合が行われました。観客席からの応援も飛び交い、各コート、大変盛り上がりを見せていました。組手の試合で勝負に負けて泣いていた少年がいました。大会ではよく見かける光景です。試合なので勝ち負けがあるのは当然です。負けたら泣いてもいいと思う。泣くくらい負けた事が悔しいと思う子は絶対伸びる。日頃の稽古の成果を100%ぶつけて負けたなら、それでいい。負けてしまったら、次に勝って笑えるように更に努力すればいい。とにかく1試合1試合大事にして勝っても負けても悔いの残るような試合だけはしてほしくないですね。今回、くやし涙を流した子達が次の機会に更なる成長を見せてくれることを期待します。今回、型・組手とも9つのコートにて行われたため、試合はスムーズに進行しました。今大会開催にあたり、県本部役員ならびに各支部の先生方、ご父兄の方々のご協力を感謝いたします。(レポート：高洲支部鷹生館 増井信吾)

第10回静岡市葵・駿河区空手道大会 過去からのエントリー傾向について



10月28日(日)に静岡市葵・駿河区空手道大会が静岡市北部体育館で開催された。今回で第10回を迎えた本大会も、静岡市民空手道大会から数えると実に47回にあたる。当日は型・組手に延べ644名のエントリーがあり、いつもの如く熱気に溢れた試合が繰り広げられた。この10年を振り返ると、

技も非常に高度化して来ており、裏廻し蹴りを極たり、練習ではサソリ蹴りを披露する小学生も見受けられた。試みに、プログラムを頼りに参加人数を拾ってみると、第一回の723名から翌年は832名とピークを迎えているが、ここ数年は700名を切っている状況である。男女別でいうと、女子はおおよそ200名弱のエントリーで、10年前とほとんど変わっていないが、男子が減少している。学年で見ると、本大会は第1回に比べ小学生が32名の減、中学生29名の減、高校・一般が18名の減となっている。しかし、小学生を4年生以下と5年以上で分けてみると、非常に興味深い数字になる。それは小学5年生以上は実に129名も減っているのに対し、小学4年生以下は97名の増となっているのである。低学年の増加傾向は、文部科学省の推進している中学における武道の必修化の影響もあるのかも知れないが、肝心の中学生は29名も減少している。そして、小学低学年ではじめた空手も、高学年になるにつれ他のことに興味が行

き、続かなくなるという事も示唆しているように思える。また、絶対数としては中学で減り、高校でさらに減るという傾向は10年前と変わっていない。文部科学省の中学校学習指導要領には、「武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動です。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動です」とある。我々の空手道がその重要な一翼を担うことができるのは明らかであり、空手に携わった人達が人生というステージにおいて継続していくことのできるような”道”として行きたいと思う。(レポート：静岡北支部春風館 遠山 貴志)

東海北信越地区技術講習会及び昇段・資格審査会

平成24年11月4日(日)に静岡市北部体育館にて、東海北信越地区講習会及び昇段・資格審査会が行われました。会場には早朝より東海北信越ブロックから大勢の受講生が集まりました。開始前、講習・審査別に受付を済ませ、ストレッチ等を早々に始める参加者にはやる気が満ちていました。本講習は総本部主席師範の香川先生をはじめ伊志嶺・松江・岡本先生が講師として指導していただくとあって緊張感が漂い、通常の講習会とは違った空気の中で始まりました。午前中は型の課題『雲手』を香川主席師範より解説していただきました。今回は事前に各支部より『雲手』を得意型とする道場生を選抜し、型の中での動きを確認しながら行われました。技の意味や動きの解説は、今後『雲手』を得意型にと思う人、また型の指導や試合での審判に必要な知識が習得できたと思えました。昼食を挟み、午後は香川主席師範から組手の指導を受けました。普段はあまり気にしないでいた体の動きやまわし蹴り、裏まわし蹴りの練習は道場でも応用が出来るのでとても役に立ちました。途中からは古典型の『旋掌』『浪手』を松江・岡本両先生より指導していただき、別室にて4・5段の審査・資格審査会が審査長の香川主席師範を中心に行われ、受審者1人1人に審査や指導を行う為のアドバイスをいただきました。毎年この講習会は開催されていますが、年々内容が充実し受講者のレベルアップに繋がり、各支部での指導や練習方法に活かされていると思います。来年も是非参加し技術の向上を目指したいと思えました。(レポート：藤枝高洲支部 小椋 明)

第12回将陽館空手道大会



11月23日 第12回将陽館空手道大会が藤枝市武道館で行われました。本年度も菊地将元館長(焼津将陽館支部長)が指導している「まどか幼稚園」「すみれ台幼稚園」の園児47名も参加し、総勢160名の大会参加がありました。出場した幼年

から一般までの将陽館メンバーの「どんな小さな大会でも全力で戦う姿」に改めて感動する事ができました。将陽館のルーツは、旧小笠郡大東町城東中学校体育館をお借りして支部を設立したのが最初です。発足時は3名の会員でのスタートでしたが、年月が流れ現在では焼津・掛川・菊川・浜松3道場と、多くの会員が創立時の強い気持ちを忘れることなく、日々稽古に打ち込んでおります。今回も、久しぶりに会う顔触れや初めて見る生徒達の姿が見る事ができました。開会式には県本部顧問の津川しょうご前衆議院議員も駆け付けて頂きました。今回で12回目となりました本大会ですが、今後も松涛連盟の会員の拡大をテーマに、永くこの大会を続け伝統を築いて行きたいと思えます。(レポート：浜松将陽館 菊地 伸幸)